

五重塔

五重塔は、京都で最も古い木造の建造物です。朱雀天皇は、936年に父の醍醐天皇に敬意を表して五重塔の建設を始め、15年後に完成しました。他の建物を破壊した火災の中で生き延びた数少ない寺院建造物の一つです。

塔の高さは38メートルで、その約3分の1は塔の頂部である相輪です。1階の壁には2つの芸術作品が飾られています。一つは有名な曼荼羅で、両界曼荼羅（2つの世界の曼荼羅）として知られる宇宙を表象する図式的な芸術作品です。もう一つは真言八祖であり、真言宗の祖を描いています。これは10世紀のものだと考えられています。